

平成21年度日本海ブロック水産業関係試験研究開発推進会議研究部会報告  
海区水産業研究部会

日時：平成21年12月10日（木）13時30分～17時

場所：コープシティ花園4F ガレソンホール（新潟市）

参加機関：13機関 26名

議事	議事概要
<p>(1) 報告事項 1) 平成20年度協議事項について</p> <p>① ブロック内での砂浜海域に関する連携研究について</p> <p>② 日本海での標識放流情報の集約について</p> <p>2) ブロック内で連携して取り組んだ研究について</p> <p>① 海区水産業研究部会傘下の会議報告 a. ヒラメ分科会 b. 増養殖研究会</p> <p>② 栽培漁業資源回復等対策事業</p> <p>③ 栽培漁業日本海北・西ブロック会議魚種別分科会アカアマダイ分科会、マダラ分科会</p> <p>3) 水研センターが行った温暖化に関する研究の取りまとめ</p> <p>4) 平成21年度水産研</p>	<p>日水研時村所長のあいさつの後、海区水産業研究部長を座長として議事が進められた。</p> <p>座長から各項目について以下の報告があった。</p> <p>○継続協議となっていたが、島根県からのサルボウ研究要望を他海区の二枚貝研究要望に合わせて課題化し、農林水産技術会議実用技術開発事業に応募提案・採択されて始まったことが説明された。</p> <p>○平成20年度に各機関の標識放流情報を日水研が集約して、日水研HPに掲載を始めたことが説明された。</p> <p>座長から各項目について以下の報告があった。</p> <p>○本研究部会直前の12月9、10日に21機関41名の参加を受けて開催されたことが報告された。</p> <p>○前年度は3月9、10日に13機関30名参加で開催され、今年度は3月に開催の予定であることが報告された。</p> <p>○日本海北部ヒラメ、中西部ヒラメ、日本海中部マダラがそれぞれ行われていることが報告された。</p> <p>○前年度アカアマダイ分科会は3月5、6日に京都で開催され、21年度は石川で開催の予定であること、マダラ分科会は12月9日に能登島で開催されたことが報告された。</p> <p>○取りまとめ内容が、水研センターHPに公表されていることが報告された。</p> <p>○10府県、水研日本海栽培3センターおよび日水研から概要の説明と質疑が行われた。</p>

<p>究実施概要及び平成 22年度研究計画概 要</p> <p>(2) 協議事項</p> <p>1) 平成20年度水産研 究成果情報候補課題につ いて</p> <p>5) ブロック内での研究 の連携協力について</p> <p>① 各種稚魚調査情 報の情報交換につ いて</p> <p>② 研究開発ニーズ について</p> <p>4. その他</p> <p>閉会</p>	<p>○府県から提案された成果情報候補課題の内、以下の8課題について提出機関からの説明と質疑が行われた。部会における検討をもとに提出府県で指摘事項について微修正の更新を行い、推進会議へ提出することとなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アカモク養殖技術開発</li> <li>・ イワガキ小型貝の耳吊り育成技術の開発</li> <li>・ アカアマダイ種苗生産における鰓形成率を安定させるための飼育条件</li> <li>・ 水中ポンプを用いたキジハタ種苗生産の再現性実証試験</li> <li>・ 海上での中間育成によるマダラ種苗の健全性の向上</li> <li>・ ズワイガニの稚ガニ量産を実証、生産数3万尾を突破</li> <li>・ アカアマダイ仔魚飼育に及ぼす24時間照明の効果は夜食にあり</li> <li>・ 外海砂浜域および内湾域における主要貝類の安定同位体比の比較</li> </ul> <p>○北部日本海B水試連絡協議会での提案について、提案県からの要望を受けてアカガレイ研究会で検討することが報告され、了承された。</p> <p>○新潟県からの藻場面積の全国規模調査要望については、すぐに全国調査実施は困難であるが、沿岸整備事業調査での課題化も含めて引き続き検討することとなった。</p> <p>○日本海で行うべき沿岸資源研究について協議した。沿岸資源についても環境変動の影響が懸念され、日水研に対し日本海全体で共通した傾向を俯瞰する研究が要望された。沿岸性の魚種と言えども県境を越えるものは国が音頭を取ることを求められた。栽培漁業についてはモデル魚種としてヒラメの重要性が高く、放流マニュアルの整理が求められ、次年度ヒラメ分科会で検討することとなった。</p>
--	---